

清瀬修一 男・35歳・りつ子の夫・会社員・職場では総務課主任・
元風早高校球児

清瀬りつ子 修一の妻・元風早高校文芸部部长・東京の大学へ進学
後、風早へ帰り地元の小さな出版社へ就職、その後修一と結婚。風
早句会員

山田太郎 修一の幼馴染。同僚。職場では副支店長。元風早高校球
児。スポーツ特待生として大学進学、身体をこわし、地元で就職、
その後風早句会を立ち上げる。最近東京俳句新人賞を取り、俳句の
先生、として持ち上げられている。

春風苑香 修一の総務課の部下。風早句会会員。運動部系社員が嫌
い。りつ子とは元同級生でいろいろライバル。

渡部健斗 修一の職場の新入社員。現場で仕事をしている。野球同
好会を作ろうと修一に相談中。

里崎みやび 風早句会会員。自分のことを僕、という21歳、女性。
地元の大学生。友達はあまりいない。太郎の秘蔵っ子。りつ子に同
志的な気持ちを抱いている。

季、寄せ来
―き、よせく―

倉庫のような部室のような一室。大き目の机が一つ。椅子など乱雑に置かれているが、居心地のよさそうな懐かしい感じのする場所。

渡部 だからなんで俺らばっか却下なんですか！

清瀬 まあ、落ち着けて。お前らばかりじゃないよ、ほら、今景気悪いだろ。部活動とかに予算つけられないんだよ、実際のところ。

渡部 だって、

清瀬 まあ聞けつて。わかるよ、気持ちはわかる。俺も野球部採用だしな。

渡部 俺ら、別に面倒なこと言っていないですよ、ちょっと飲み物代欲しいとか、ちょっとボール買いたいとか、ちょっとだけ使える経費が欲しいのと、ちょっと荷物とか置かせてもらったり、ちょっとミーティングに使える場所が欲しいとか、その程度ですよ。

清瀬 うん・・・そういうのを認可部って言うんだけど一般的なには、

渡部 清瀬さん！

清瀬 や、まあ、うん、あれだ、なんとか俺が総務部長に掛け合つて、

渡部 ここはなんなんですか！

清瀬 ……ここ？

渡部 ここは、どうなんですか！

清瀬 ここかあ・・・

渡部 空き倉庫でしょ、全然使えるじゃないですか、俳句部の連中は使ってるでしょ、知ってますよ、あいつら、

清瀬 あそこも正式な部じゃないんだよ、有志が集まってる、って体だ。基本的にここ何年も部活動とかは認めてないんだよ、会社は。

渡部 でも、

清瀬 うん、まあまあ聞いて。ここは会社の空き倉庫だよ。ただほとんど使わない、ってことでこの町内会の倉庫兼集会所に使わせてあげてんだよね、そんで、俳句部、部じゃないけど、はそこに頼んで使ってる。町内会長の馬場さんが、俳句部の、部じゃないけど、山田の弟子なんだって。

渡部 ……山田、

清瀬 うん、

渡部 副支店長。

清瀬 そう。

渡部 ……

清瀬 山田副支店長、最近、ほら、東京の雑誌の俳句の賞？
かなんか取っただろ。ローカルテレビにも出ちゃったりしてちよっ

とした有名人なんだよ、この辺では。町内会長の馬場さんなんか、心酔しちゃってて先生先生、ってさ、

渡部 ……知ってます。総務部の春風先輩とかもその一派でしょ？

清瀬 一派って、

渡部 太一朗先生太一朗先生ってなにが太一朗先生ですか、副支店

長の名前、山田太郎でしょ！

清瀬 う、うん、

渡部 ドカベンですよ。

清瀬 よく知ってるな、そんな古いの。まあ、あいつも俺の同期の

野球部だけだな。

渡部 山田太郎ですもんね。

清瀬 お、おう…けど、あいつピッチャーだけだな。

渡部 俺もですよ！

健斗、入り口へ向かってシャドーピッチング。

同時にドアが開く。春風苑香、句会の道具らしきものを抱えて入って来、健斗を見て、

渡部 ……わ、一派、

春風 関係者以外、立ち入り禁止なんですけど。(修一に)お疲れさ

まです、主任。すみません、日曜に。

清瀬 おう。春風だけ？山田たちは。

春風 すぐ来られます…。(健斗に)なんなの、渡部くん、まだ言ってるの？

渡部 ……

春風 日曜日まで清瀬主任おっかけまわして。

渡部 おっかけ、って。主任が日曜日にわざわざ来てんの、春風先輩たちの用事でしょう、

春風 このカギ、一応うちの会社管理だから、

清瀬 あ、そのことなんだけど、

渡部 だから、俺らそんな無理言っていないですよ、部室の代わりに言ったってちよつとそこら辺に荷物置かせてもらいたい、って言うてるくらいで。そもそも、

春風 だ、か、ら。そもそも、私たちがここ使わせてもらってるのは町内会の俳句同好会として町内会に許可もらってるからなのよね、時間単位で。いつも使ってるわけじゃないわ。

渡部 その度に主任呼び出して、

春風 鍵の管理は総務課がしてるから、仕方ないでしょう？

清瀬 そのことなんだけど、

渡部 だから、主任に頼みに来てるんでしょう、だいたい春風先輩

にいいとか悪いとか言う権利、ないんじゃないですか、今聞いた感じだと。

春風 総務課としては、管理に不安が残る団体には貸せない、といっただけよ、野球の道具とか置きっぱなしになるんでしょ、なくなつたつてうち責任取れないわよ、

渡部 誰も盗らないですよ、バットやボールなんか。個人持ちの取られて困るようなもんは置きっぱなさないし。それにここ使うの、町内会の詩吟同好会とか老人会、のみなさんとか、そんなんでしょ。

春風 何かあった時困るでしょ、つて言ってるの、

渡部 出た、総務の責任逃れ。

春風 ちよっ（とどういう意味、）

清瀬 あーもううるさいお前ら、いい加減にしろ、健斗、なんでそんなけんか腰なの、春風もいいとか悪いとかお前が判断できることじゃないだろ、なんでお前らそんなに仲悪いんだよ、

そつと、山田がのぞく

山田 もう入っていいかなー

渡部 副支店長。（同時）

春風 先生（同時）

清瀬 山田・・・来てんなら入って来いよさつさと。

山田、鞆と資料などを持って。

山田 や、すまん、取込み中かと。ほら、俺上司だし。

里崎、山田のあとからそつと入ってくる。

里崎 失礼します。

渡部 みやび、お前も来てたのか、

里崎 うん、太一朗先生と一緒に。ちよつと、入りにくくて・・・

山田 なあ。

里崎 ・・・・（少し笑ってうなづく）

春風 すみません、太一郎先生にまで、

里崎 あ、僕が。

里崎、山田から鞆・資料などを受け取り、句会の準備など始める。

山田 なんか、すまん、うちのこと。

清瀬 まあ総務課の仕事っちゃ仕事だからなあ。

渡部 ……

山田 渡部くん。渡部健斗君だよ、第一ラインに配属になった。俺、覚えてる？

渡部 はい、採用試験の時と……入社式で。

山田 そっか、君野球部だったよね……知ってる？

渡部 ……

山田 俺も野球部。

渡部 ……みんな、知ってます。うちの高校が甲子園行ったの、あの年だけでしたし、野球で大学行った人、山田副支店長だけです。から。レジェンド、っていうか。

山田 いやいやそんな。(渡部以外に)聞いた？レジェンドだって。

全員、それぞれうなづいたり顔を合わしたり。

清瀬 みんな知ってるよ、小さい町なんだから、言わずなよわざわざ。ざ。

山田 え、みやびくん、俺が野球少年だったこと知ってた？

里崎 あ、はい。太一朗先生が「東京俳句新人賞」を受賞された「帰り道」30句の中に、何句か野球少年の視点の句がありますよね。

山田 ああそうか、そうだねー。

春風 珍しい視点のみずみずしい感性、って選評でしたよね。

山田 まあ、珍しいよなあ……こいつも、レジェンド。俺らバツテリーだったから。

清瀬 もういいって。

山田 いいんじゃない？

清瀬 ……

山田 うち野球部採用多いし、野球やってるやつの方が多いだろ、俳句やってる奴なんて、俺と春風と深原、と

春風 資材の井本さん、ですね。

山田 寧ろ認可部にするんなら、野球が先だよ。活動はグラウンドなんだし、道具置くらい構わんだろ？

清瀬 お前らがいいんなら、総務課は別に。

春風 ええ、まあ。

渡部 つし！ありがとうございます！

清瀬 認可部の件は別な、部長の決済がいるから。

山田 おう。神崎さん、厳しいからなあ……ま、様子見て俺からも話しとくよ。

春風 ……

山田 どっちも。

清瀬 そうしてくれると助かる。

春風 ちゃんと片付けて、隅の方に置いてよね。

渡部 任せてください！

春風 ……

渡部、さっそく外へ向かう。

渡部 春風さん、総務でまた倉庫から荷物あげるときとか、いつで

も言ってくださいね！みやび、またな。

出ようとすると同時にりつ子入って来、ぶつかりそうに。

渡部 あ、すみま、

りつ子 わ、ごめ、

渡部 あ、主任の奥さん、

りつ子 あ、えーと、渡部くんだったっけ？

渡部 はい、野球部の。いつもお世話になります。

りつ子 いえこちらこそ、主人がお世話になります。

渡部 えーと、

りつ子 えーと、

渡部 帰ります。じゃ、俳句部の皆さん、また。

渡部、元気よく退場。りつ子、見送って、

りつ子 すみません、遅れて。

里崎 大丈夫です、まだ始まってません。

りつ子 あら、そうなの。ごめんね、里崎くん、準備全部やらしち

やって。

里崎 全然。

清瀬、ちよつとりつ子に手を挙げ、

清瀬 山田、それでここの鍵なんだけどな、

山田 ああ、

清瀬 お前、一本持つ？野球部には俺んとこ取りに来いって言っと

くよ。お前んところは、会社の人間少ないから、逆に不便だろ。

山田 えー。大丈夫かなあ、俺で。

清瀬 お前、副支店長だろが、会社では。

山田 そうだけどさ、

春風 確かに・・・それが一番いいですかねえ・・・

山田 よし、それじゃ、

里崎 すみません、あの、

全員が里崎を見る。

りつ子 どうしたの？

里崎 すみません、家の用事が出来て。僕、今日はこれで帰ります。
すみません。

慌てた様子で帰ろうとする。

りつ子 またおばあちゃん？

里崎 ……今度は鉄砲町の交番です…すみません、りつ子さ
ん、これ、

りつ子 大丈夫よ、みんなでやるわ。

里崎 すみません、

それぞれに頭を下げ、急ぎ足で退場。りつ子、出口まで送る。

少し間

清瀬 えっと、

山田 ああ、すまん、いろいろと。

清瀬 気にすんな。りつ子、帰りは？

りつ子 ん、

春風 10時過ぎですね。すみません、奥様、お借りします。

清瀬、少し笑って、

清瀬 先、帰ってるな。気を付けて帰れよ。

りつ子、うなづく。清瀬、軽くあいさつし、退場。

……

日曜午後。句会中。山田、りつ子、春風。

山田 うん、だから、音は五七五でとれるんだけど、これは意味の

切れがここにあつて、句またがりになっていて、テクニクのある
句だよな。面白い。誰、これ。

春風 私、です。

山田 お、勉強してるじゃん。

春風 ありがとうございます！作ってるときは、

扉が開いて渡部が入ってくる。

渡部 失礼します！

春風 (さえぎられて) なんなのよ、野球同好会。

渡部 あ、すみません、どうぞ続けてください。俺、昨日忘れ物を

したみたいで。えーと、この辺……

野球部、と書いた段ボールをがさがさと。座り込む。

渡部 あ、みやびは？

山田 ああ、みやびちゃん、遅れてくるって言ってたんだけど……

渡部 ああ、そうなんすね。バイトですかね。

山田 いや、はつきり言わなかったから……バイトじゃないんじゃない？

渡部 ああ。

山田 大変だな、あの子も。

渡部 ですよね。

渡部、箱の中から取り出して資料のチェックを始める。山田、春風を促す。

春風 (氣勢をそがれて) 仕事終わりに、あ、うちに帰るとき一本

細い路地を通らないといけないんですが、その路地のちょうど上に

月が昇っていて、

渡部 あ、あそこか。春風先輩んち、新庄町社宅ですもんね。

春風 うるさい。月が昇っていて、それがぼんやりかすんでいるのが自分みたいだな、って思ってる。

山田 うん。その辺のちよつとした日常の中の不安感？みたいなのが、路地を使ったことで生きてるよな。地味だけど、良い句だと思

うよ。

春風 (うれしそうに) はい。

山田 この句で、

りつ子 最後ですね……里崎君、

山田 間に合わなかったな……さてと、

山田、立ち上がる。扉が開く。慌てた様子の里崎、入ってくる。

里崎 すみません、遅れて。

全員 おお（など口々に）

里崎 すみません、

山田 大丈夫か、（同時）

渡部 なんかつたのかまた、（同時）

春風 いいいい大丈夫、（同時）

りつ子 大丈夫よ。

里崎 ……はい。

山田 来た途端すまん、俺、今から取引先の偉いさん迎えに行つて、

接待なんだ。ええつと、清記、

春風 みんな書いてますけど、あとで私がまとめて（里崎に）ライ

ンのノートに貼るね。みやびくん、先生の天、二つよ。

里崎 ありがとうございます。

山田 みやび、聞きたいことあったらあとでな。

里崎 はい。

山田 春風、悪い、送ってくれる？お前車だろ？

春風 あ、はい、いいですけど、副支店長、車じゃ、

山田 俺歩き。飲むから。

春風 分かりました。

山田 行きたくないんだけどさー、神崎さんが「野球の次は俳句で

すか」って怖いんだよ。

春風 ご心配なんですよ、神崎部長、先々代の社長の代からの総務部長ですし。

山田 そうかなあ・・・りつちゃん、すまん、あと頼むな。

渡部 あ、お疲れさまです。

山田、春風、ばたばたと退場。

渡部 慌ただしいなあ。

りつ子 お忙しいのよ。

渡部 みやび、なんかあったのか、また。

里崎 いや、いつものことだよ・・・ただ母が、ちよつと参つて来

ちゃつてて。

渡部 そっか、大変だな・・・な、お前今から暇？

里崎 今？

渡部 試合なんだ、見に来ない？ほら、3組の古川とか覚えてない？

あいつも野球部に入ったんだ、今日は、

里崎 せっかくだけど、今から清記、見せてもらうから。

渡部 そっか・・・

里崎 うん。

渡部 ……そっか。

里崎 ごめんな。

渡部 や、いいんだ、ほらお前古川とまあまあ仲良かったから、と思つて。

里崎 え、そうだっけ？

渡部 や、いいんだ。

一瞬間

渡部 じゃ、俺行くわ。

里崎 がんばれよ、

シヤドーピッチングでボールを渡部に。渡部受けるしぐさ。

渡部 おう。またな。

渡部、りつ子に会釈をして、退場。りつ子、里崎の二人になる。

りつ子、机の上を片付けている。里崎、それを見つめる。

しばらく間。

りつ子 なあに。

里崎 みんな、忙しないなあ、と思つて。

りつ子 あなたもでしょ。

里崎 (少し笑う)

りつ子 清記、写す？

里崎 はい。

里崎、りつ子の隣に。

りつ子 それと、先生の里崎君の句の選評、書いていた。見たいで

しょ？

里崎 ほんとですか？ありがとうございます。

二人、ノートをのぞき込んで楽しそうに。しばらく間。

里崎 ……すごいな、やっぱり。太一朗先生。

りつ子 ね、毎回どうしても取らされちゃう。

里崎 はい…あー、これなんかもう。書けないですよね、なか

なか。なんていうか、

りつ子 ええ、

里崎 こんなに明るくて対象が分かりやすくはつきりしてて、一見

月並み句にさえ見えるんですよ、なのに

りつ子 どこかさみしい。

里崎 ……はい。

りつ子 自分はこの人のこといちばんよく分かっているかもしれない。

里崎 ？

りつ子 って思わせたら、作家として一流なんだと思うのね。

里崎 あー、

りつ子 私たちみんな、先生のこと、ちよつとそう思ってた。

里崎 あー確かに。そうですね、

りつ子 ね。

里崎 悔しいな。少し。

少し間

りつ子 みやびくんのものね、

里崎 はい、

りつ子 これ、私も取ったのよ。凄いわね、よくここまで飛べるな、

と思う。

里崎 取り合わせにしても離れ過ぎ、とか、

りつ子 ああ、

里崎 季語の本意を分かってない、とか言われますけどね、ここに

外では。

りつ子 (少し笑う)あなたは案外クラシックだと、私は思うけど…

っていうか、本意分かってないと飛べないもんねえ。

里崎 ですよねー。

少し間

里崎 新しき、なんて、誰も求めてないのかも知れないですね。

りつ子 花鳥諷詠が嫌い？

里崎 好きですよ。ほら、僕クラシックだから。

りつ子 ……いい人たちなのよ。

里崎 そうですね。

りつ子 ……

里崎 いい人たち。生み出すことも壊すこともなく、ただ生きて死

ぬ。俳句は季節の挨拶だから。

りつ子 ……

里崎 僕もですけどね。

りつ子 立ち入り禁止の赤の三角ポール。

里崎 ？

りつ子 工事現場にたててある。

里崎 はい、

りつ子 清瀬の父も、一昨年亡くなったんだけど、最後の方は痴呆がひどくなつてて。

里崎 ……ああ、

りつ子 それがね、面白いの。なんでかいろんな現場から工事用の赤の三角ポール集めてくるの。何度も何度も、いくつもいくつも。

里崎 へー、

りつ子 うちの庭、三角ポールだらけになっちゃって。清瀬と二人であちこち返しに行ったんだけど、追いつかなくて。

里崎 ……なんか、えっと、誰も通ってはならぬ、みたいな？

りつ子 そうね（少し笑う）鍵屋町、東雲通り、西宝町、海岸寺、市内から海端まで、あの年でよく歩けたな、と思うんだけど。最後の方にはもう私たちの方が返すのあきらめちゃって。庭にこう、並べてみたりして。

里崎 うん……

りつ子 何を、

里崎 ……

りつ子 何を止めようとしたのかしら。あの人。

里崎 ……

少し間

りつ子 じゃ、私、帰らないと。

里崎 あ、僕はもう少し。もう少しここに居たいんです。

りつ子 ……鍵、お願いね。

里崎 いつもありがとうございます。

りつ子 え？

里崎 選句。僕の句を取ってくれるのは、先生とりつ子さんだけだ。

りつ子 ……いい句だもの。それに、

里崎 ……

りつ子 よく分かるの、私。

一瞬間

りつ子、退場。みやび、一人になる。机の上に寝転がる。すぐ起き上がる。りつ子の消えたドアを見つめる。また寝転がる。

そのまま、別日。

清瀬、入ってくる。

清瀬 あ、

里崎 あ、

清瀬 えーと、山田んこの、

里崎 里崎みやび、です・・・あの、りつ子さんは？

清瀬 りつ子？

里崎 りつ子さんを待っていて。

清瀬 今日はちよつと体調が・・・、来れるかどうか、

里崎 そうですか・・・

清瀬 なにか、伝えましょうか？

里崎 いえ・・・

清瀬 ・・・

少し間

里崎 昨日、口論になってしまったて・・・これ、渡してもらえます

か？昨日の、句会報なんですが・・・

清瀬 くかい、ほう？

里崎 昨日の句会の投句と選句を記したものです。

清瀬 はあ、

里崎 りつ子さんの句は？

清瀬 いや、僕は体育会系で、こういう高尚な趣味は・・・

里崎 ・・・りつ子さんの句は、整っていてきれいで落ち着いてい

て、それでいて情熱の影があつて、けどどやり過ぎてなくて、

清瀬 はい、

里崎 僕は好きです。

清瀬 ああ、えつと・・・ありがとうございます。

里崎 僕の句は分かりにくいらしくて、特選をつけてくれるのが、

りつ子さんと主幸くらいで・・・

清瀬 はあ、

里崎 ポップミュージックと芸術性について、昨日帰り道で口論に

なつてしまつて、それで、

清瀬 ・・・

里崎 ・・・

清瀬 そんなことで喧嘩・・・気にしないでください、あいつ大人

げないな、一介の主婦が、ポップミュージックと芸術性ってねえ、

里崎 ・・・また、来週、と伝えてください。

清瀬 分かりました・・・あ、何曜日ですか？

里崎 ……日曜です。

清瀬 はい。

清瀬、里崎が帰るのに軽く会釈、見送る。

かたん、と扉が動く。

清瀬 りつ子？

そのまま別日。夏。花火大会。

清瀬、山田のふたり。缶ビール開けて飲んだり。

清瀬へえ、じゃ、家族で行ったんだ、曲がり川の花火大会。懐かしいな・・・覚えてる？高校の時みんなで行ったじゃん。しばらくいい感じで見たらさ・・・そうそう、サイレンが聞こえて来て。

そう、向こう岸に消防車が来て放水始めて。これがほんとの対岸の火事、なんつって言っさ（笑う）

山田 ……そうだったなー

清瀬 今思うと笑い事じゃないんだけどさ、あんときは妙におかしくて、りつ子が東京の大学行く前だったから・・・俺とりつ子、あんどきまだ付き合ってたな、りつ子高校生だったし。お前んとこは、

山田 あー。あんどきはののちゃん。

清瀬 のの、あー、あの子な、ちっちゃい、くしゃつとした顔の、

山田 そうそう、

清瀬 あれ、あの子じゃなかったっけ、ほら、土佐犬みたいな、

山田 どんなんだよ、違うよ、ことちゃんはそのあと。

清瀬 あれだな、お前、昔からちっちゃくてくしゃつとした感じの子が好きだよな。

山田 そうだなー・・・お前は

清瀬 俺は、しゅつとしたのが好き。

山田 ……そうだなー

清瀬 なんだよ、家族で花火大会行って、楽しんできたんだろ、テンション低いなー、あ、あれか、嫁さんと喧嘩した？子供どっちが抱っこするか、とか、場所が悪いー、とか、写真下手すぎ、とか、

山田 なあ、

清瀬 屋台のビール高いのになんで飲むの？とか？仕方ないよな、

だいたい持ってたの、足りなくなるもんな。あ、鳥賊焼き食った？

山田 ……あのさ、

山田、シャドーピッチングをなんとなく始める。

清瀬 なに？

山田 あんま嫁とうまくいってなくてさー……

清瀬 ……そうなのか。

山田 うん。……あのさ、

黒木 なに？

山田 りっちゃんは？

黒木 ん？ああ、仕事忙しいって。花火大会行こうって行ってたん

だけどな、帰り遅いって、さつき。大変だな、雑誌の編集者って、

山田 まあ、

清瀬 なんだよ、

山田 りっちゃんさ、

清瀬 ……

山田 家でどうなの？

山田、清瀬に投げる。清瀬、受ける。

清瀬 どうって。うちは普通。いたって普通。特に問題なし。ま、

親父が生きてた頃はほら、色々あったけどさ。お前んちはどうなん

だよ、大丈夫なの？

山田 うん……あいつさ、

清瀬 ……

山田 あいつさ……寂しいんだと思うんだよ、

清瀬 寂しい、ねえ……

山田 今、稼ぐ旦那と可愛い子供がいて何が、って思っただろ。

清瀬 自分で言うなよ、

山田 そういうところなんだよなあ……

清瀬 なにが？

山田 りっちゃんさ、

清瀬 ？

山田 なんていうかさ、

清瀬 うん？

山田 危なっかしいな。

清瀬 ……

山田 ちゃんと話せよ、何でもいいからさ。

清瀬 ……んん、まあ、仕事、忙しいみたいだし。

山田　みただいな。

清瀬　・・・あいつ、趣味も多いし。

山田　・・・そうだな。

清瀬　・・・

山田　一応、伝えたからな。

山田、清瀬を置いて退場。清瀬、ひとりになる。山田を追いかけようと立ち上がる。同時に渡部、春風入ってくる。

渡部　あれ？清瀬主任、

清瀬　おう、

渡部　どしたんすか？

清瀬　・・・ああ、ちょっと山田と。

春風　あ、あれやっぱり太一朗先生だったんですね。ね？

渡部　俺ら、明日の夏祭りで子供に配るお菓子とか取りに。

清瀬　ああ、そんなんだったなあ・・・なー、春風、高校を出てから短大行ってうちだっけ？

渡部　俺らいつまで子供会OBやってんですかねー。

春風　え、はい。仕方ないでしょ、他にいないんだから。

清瀬　お父さん、確か工場の、

春風　はい、工場の方の事務所です。あ、あった、これこれ。

清瀬　健斗は、

渡部　俺は高卒卒です、野球部採用。俺持ちますよ、春風先輩、そ

つちの袋、

清瀬　俺らん時もさ、みんな親と同じ工場や事業所に就職したんだ。

渡部　西と川向うの社宅はだいたいそうですよ。

春風　これ、どこ持つてくの？

渡部　とりあえずうちの、入って左側に土間みたいなどこあるじゃないですか。

春風　左？あ、うち、右だ。逆だから。あそこ改造して私の勉強部屋だったのよねー。

渡部　へー。

清瀬　りつ子は、

春風　りつ子、は・・・東京の大学へ行って、

渡部　あ、鍵、

清瀬　ここ出てく前日にさ、りつ子俺を訪ねてきて、

春風　ああ、すみません、じゃ、これも返してもらっていいですか？

清瀬　（受け取る）「やっど、出ていける」「嬉しいけど、ひどくさ

みしい気もするの」「帰るとき、手紙を書くわ」

渡部　「やっど出ていける」かあ・・・

春風 「帰るとき、手紙を書くわ」・・・え、じゃあ、りつ子帰ってくるとき、手紙来たんですか？今も持つてるんですか、主任、

(素敵な思い出話ですか、などと) 言いながら、ふたり会釈をして出ていく。清瀬、一人になる。

清瀬 ……どうかな(少し笑う)

二場

清瀬、何かを探している様子。山田を先頭に次々と句会のメンバーが入ってくる。りつ子、春風、句会の準備をする。みやび、一人離れたところに。

山田 清瀬、日曜出勤か？え、そんなに忙しくないだろ？うち。日曜くらい休めよ。

清瀬 (後ろ向きのまま) や、ちよつとな、気になることがあって。

山田 気になること？なんだよ、気になるな、仕事のこと？

清瀬 山田、(なにか言いかけて、躊躇して止める)

山田 なに？

清瀬 ……いや。

山田 なんだよ、大きい商談の納品も終わってさあ、いい季節じゃ

ん。

清瀬 ……そうだなー。

山田 ……

清瀬 ……

山田 変な奴だなー。

春風 先生、

山田 おう、

りつ子 始めますか？

みやび以外席に着く。

山田 ええっと、清記は配った？

りつ子 はい。

山田 じゃ、おのおの選句はじめて。終わったら短冊に書いて、俺
んところに出して。

春風 はい。

山田 みやび？

里崎 あ、はい。

里崎、席について選句を始める。

各々、選句を始める。

清瀬は、そのまま資料を読んだり探したり。

しばらく間

里崎、立ち上がる。

山田 みやび？

里崎 僕、

りつ子 みやびくん？

里崎 僕、もう、ここには来れません。俳句も、止めます。

句会全員 ……

一瞬間

りつ子 ……なにか、あったの？

山田 句会に出られない、じゃなくて、俳句を止めるのか。

里崎 ……

山田 まあ、落ち着いて、話して。

里崎 ……母が……倒れてしまつて。もう祖母の介護は出来な

い、つて言うんです。

春風 出来ないって……

里崎 徘徊がひどくて。母も……疲れてるんだと思います……

お前が面倒を見てやれ、可愛がつてもらったおばあちゃんですよ、

無理なら部屋に鍵でもかけて閉じ込めておけ、つて……祖母は、

僕には優しくかったけど母には厳しくて。父がいなくなつてからは僕

を父のように扱つて。母には……母には本当に厳しくて、だから

母は……でも僕は、人を、

少し間

山田 みやび、

里崎 すみません。

山田 お前が謝る事じゃない……何か公的な支援や、そういうの、
まず当たってみろ。俺らも探してみるし。なあ、総務のついで、

清瀬の方を見るが清瀬は気づかないので春風をみる

渡部、清瀬に何か報告する。

清瀬 そうか……

渡部、句会の方を向く。

一瞬間。

春風 当たってみます。

山田 あきらめんな。

里崎 ……

りつ子 出来ることは、言ってくれたら。私たちに出来ることなら、

渡部 春風さん……

春風 ……？

渡部 あの、

春風、怪訝そうに清瀬、渡部の方へ。

渡部、春風になにか話す。

乱暴にドアが開いて渡部が慌てた様子で入って来、まっすぐ清瀬の
ところへ。

春風 そんな、

渡部 主任、

清瀬 おう、どうだった？

春風 なんなのよ、野球同好会、

春風、清瀬を見、渡部を見、急いで外へ。

春風 ……確認してきます。

渡部 春風さん！

渡部、春風を追って外へ。

山田、清瀬の方を見るが、清瀬は背を向けて資料を調べるそぶり。

山田 ……みやび、

里崎 ……

山田 あきらめるなよ、止めるな。

里崎 でも、

山田 お前の才能は、本物だと思う。あのな、みやび、

里崎 ……

山田 才能とかセンスっていうのはな、誰にでもある訳じゃないんだ。そりや上手くはなれる、誰でも、ある程度は。けどな、欲しくても欲しくても、手に入らないものがある。書くことも、切り取りもそう、野球だってそうなんだ。お前は、その才能を手放すな。

里崎 ……

りつ子 みやびくん、何が出来るか、分からないけれど、私たち、

乱暴に扉が開いて、春風、渡部入ってくる。ただならぬ様子。二人、

そのまま清瀬のところへ。

春風 主任！

清瀬 ……

春風 私が取引前に確認したときには、確かに…

清瀬 うん。分かっている。

清瀬、春風の肩をたたく。

清瀬 山田、

山田 ？

清瀬 すまん、エル・コーポレーションの取引、いや、エル・コー

ポレーション自体が架空会社だ。

山田 え？

一瞬間

渡部 納品先の倉庫、一か月前から借主が契約解除してて。倉庫の

管理会社から納品伝票たどってうちの工場に連絡が来て。支払い期限

2か月後の契約だったから、経理の方もチェックかかってなくて。

山田 え、だってあそこは、神崎さんが退職前の最後の大口取引っ

てまとめた、

春風 はい、いろいろ口をきいてくださって、

清瀬 神崎さんとは、連絡がとれん。

山田 え、

清瀬 エル・コーポレーションの調査記録も契約書も取引関係の詳細も、全部消えてる。

山田 ……損失は、

清瀬 正確には。単純に、一週間後の入金はないな。

少し間

山田 清瀬、経緯まとめて報告できるか？

清瀬 今やってる。

山田 春風、三役と各部署の主任以上集めて。

春風 はい。

清瀬 それと神崎部長の行方、健斗が当たってくれてたんだ、

山田 そっか、すまん渡部くん。会議に出て、それも報告できる？

渡部 はい。

山田 一時間後に、会社で。俺は親父呼んでくる。

山田、みやびに目をやり、ぼんつと頭を叩いて退場。

渡部、春風、後に続く。

清瀬、りつ子に

清瀬 りつ子、すまん、しばらく帰れないかもしれん。

りつ子 そう。大変ね。

清瀬、退場。

りつ子 行ってらっしゃい。

りつ子と里崎のみ残る。扉の方をみつめる。

しばらく間。

りつ子、里崎をそっと抱く。

りつ子 私が居るわ。行きましょう。

りつ子、里崎、退場。

三場

同じく倉庫。半年後。大きな荷物を持った里崎、入ってくる。懐か

しそうに見渡す。

しばらくして、りつ子、そっと入ってくる。

里崎 ……

りつ子 ……

里崎 すみません、呼び出して。

りつ子 ……行くの？

里崎 ……はい。

少し間

里崎 祖母のお葬式も済んだので。

りつ子 ……そうね。

里崎 いろいろ……ありがとうございました。僕一人では、祖母

の面倒、最後までは見られなかったと思います。

りつ子 私は、

里崎 鍵のことも。

りつ子 ……

里崎 僕は、ここが好きでした。ここだけが僕の居場所でした。僕

は早く解放されなかった。早く終わってほしかった。ここに、

りつ子 ……

里崎 来たかった。

りつ子 鍵のことは、

里崎 ……

りつ子 私たち、共犯だわ。

里崎 りつ子さんはなにも、

りつ子 いいえ。

里崎 あれは僕が、

りつ子 私も……私も、そう思ってたの。お父さんを見ていたと

きね、そう思ってたの。早く解放されたい、早く終わってほしい、

どうして私だけが、立ち入り禁止の三角ポールの内側に居なければ

いけないの、って、家の中から。だから、

里崎、おずおずとりつ子を抱く。

しばらく間

りつ子 ごめんなさい。

二人、ゆっくり離れる。距離を取る。

りつ子 私は、

里崎 もういいんです。

りつ子 私は、行けないわ。

里崎 でも来てくれた。

りつ子 ……

里崎 もういいんです。

りつ子、扉の方へ行き、振り向く。

りつ子 身体に気を付けて。元気で。

里崎 りつ子さんも。

りつ子 いい句を作って。

里崎 僕は、

りつ子 ……

里崎 りつ子さんも。

りつ子、ドアノブに手をかけ、いったん躊躇し、退場。里崎、ドアを見つめる。

少し間

入れ替わりに、山田、入って来、里崎を見て驚く。

山田 みやび、

里崎 先生。句会だと聞いて。

山田 ……元気だったか？

里崎 はい。

山田 大変だったな、お祖母さん。こっちもバタバタしていて、葬式にも顔も出せず……みやび、

里崎 はい、

山田 すまん。

里崎 ……いいえ。

山田 もう、行くのか。

里崎 はい。ありがとうございました。

山田 言つてた東京の結社には、お前のこと伝えておいたから・・・
淋しくなるな。

里崎 ありがとうございます。僕もです。あの、会社の方は？

山田 ああまあなんとか。融資が決まったから。なんとか、職員を
職安に並ばせなくて済んだ。まあ、しばらくは、いろいろあれだけ
どな。

里崎 そうですか・・・

山田 なあ、みやび、

里崎 はい。

少し間

山田 俺がさ、野球少年だったこと、知ってる？

里崎 (少し笑う) 知ってますよ。

山田 あの頃はさ、

里崎 ・・・・

山田 野球でどうにかなる、世界は変わる、って思ってたんだよな。

里崎 ・・・・

山田 今でも、夢に見るときあるよ、夏のボールの先に、清瀬のミ
ットがあつて。フェンスの真上に、

里崎 入道雲。

山田 ？

里崎 分かります。

山田 ・・・・そっか。

里崎 ・・・・身体を壊されたと・・・

山田 今でも、草野球くらいならやれるんだけどな・・・プロは
な・・・肩をやつて・・・あれも夏だったな・・・テレビで偶然入
道雲の句を見たんだ。

里崎 ああ、

山田 雲の峰崩れんとしてなほ高く。高浜年尾だ。

里崎 それで、俳句を。

山田 単純だろ。

里崎 (少し笑う)

山田 単純な方が、いいこともあるんだ。

里崎 ・・・・はい。

山田 俺らは・・・俺は、目の前のことにすぐ夢中になって、それ
しか見えなくなつて。なあ、お前は、

里崎 雲の峰一人の家を一人発つ。

山田 ・・・・

里崎 岡本眸ですね、僕なら。

山田 ……そうか、

里崎 はい。

山田 ……手放すなよ、

ドアが開いて、渡部、春風入ってくる。

渡部 みやび！

春風 みやびくん、

里崎 あ、句会だと聞いて。行く前に、と思つて。あれ？渡部？

渡部 おう。(自分を指して) 野球部兼俳句同好会員。

里崎 へー。

渡部 山田支店長見習つて、俳句が詠める野球部員目指そうかと思つて。

山田 目指すな目指すな。

渡部 みやびも、小学校の頃野球部だったもんな。

里崎 うん。だんだん、女の子はだめつて感じになつて。

山田 へえー。

春風 そうなの、知らなかった。ね、みやびくん、時間あるの？何句か出してかない？

里崎 ありがとうございます。でもあんまり(時間が)。どうぞ、始

めてください。僕、適当な時間に出るんで。

春風、渡部、句会の準備をする。

山田 準備できたら、選句はじめて。終わったら短冊に書いて、俺んとこ出して…あ、りっちゃんが、

春風 来れると思う、とは言つてたんですけど。

山田 家で過ごしたいかな。清瀬も、今度の件で、ずっと会社に詰

めてたからほとんど家に居なかつたしな。

渡部 そうですねー。俺ら、独身だからいいですけどね。

春風 一緒にしないで。

選句を始める。

里崎、それを見ている。

しばらく間。

渡部 みやび、

里崎 ？

渡部 みやび、

里崎 なんだよ、集中しろよ(少し笑う)

渡部 ……だな（少し笑う）

里崎 なあ、

渡部 なんだよ、

里崎 顔を見るだけで、

渡部 うん、

里崎 顔を見るだけで、涙が出るくらい、誰かのこと好きになった

ことある？

一瞬間

渡部 あるよ。

里崎 そっか。あるんだ。

里崎、立ち上がる。

山田 時間か。

里崎 はい、みなさんお元気で。

山田 お前もな。

里崎、ドアノブに手をかけ、

里崎 りつ子さんに、

山田 りっちゃん？

里崎 僕、祖母の部屋に鍵をかけることがどうしても出来なくて。

怖くて。嫌で。りつ子さんがかけてくれたんです。

山田 ……

里崎 嫌なことをさせてしまつて。ありがとう、つて伝えてくださ

い。

里崎、ドアを開けて退場。山田、渡部、春風、見送る。

春風 行っちゃったね。

渡部 ……

春風 さみしいでしょ、

渡部 ……春風や闘志抱きて丘に立つ

春風 正岡子規だっけ？

渡部 高浜虚子です。

山田 おお、勉強してるじゃん。

乱暴にドアが開いてりつ子が入ってくる。

山田 りっちゃん？

りつ子 みやびくんは？

渡部 あの、さつきまで、

りつ子、追うように退場。

山田、渡部、春風、顔を見合わず。

暗転。

重なるように花火の音。

清瀬と山田。一場の同じシーンと同じ様子で。

清瀬 へえ、じゃ、家族で行ったんだ、曲がり川の花火大会。懐かしいな・・・覚えてる？高校の時みんなで行ったじゃん。しばらくいい感じで見てたらさ、サイレンが聞こえて来て。そう、向こう岸に消防車が来て放水始めて。これがほんとの対岸の火事、なんつっ

て言っさ(笑う)

山田 そうだったなー

清瀬 今思うと笑い事じゃないんだけどさ、あんときは妙におかしくて、りつ子が東京の大学行く前だったから・・・俺とりつ子、あんときまだ付き合ってたな、そういえば。お前んところは、

山田 あー。あんときはののちゃん。

清瀬 のの、あー、あの子な、ちっちゃい、くしゃつとした顔の、

山田 そうそう、

清瀬 あれ、あの子じゃなかったっけ、ほら、土佐犬みたいな、

山田 どんなんだよ、違うよ、ことちゃんはそのあと。

清瀬 あれだな、お前、昔っからちっちゃくてちよこつとした感じの子が好きだよな。

山田 そうだなー・・・お前は

清瀬 俺は、しゅつとしたのが好き。

山田 ...そうだなー

清瀬 なんだよ、家族で花火大会行って、楽しんできたんだろ、テンション低いなー、あ、あれか、また嫁さんと喧嘩した？子供どっちが抱っこするか、とか、場所が悪いー、とか、屋台のビール高いのになんで飲むの？とか？仕方ないよな、だいたい持ってたの、足りなくなるもんな。あ、鳥賊焼き食った？

山田 ……あのさ、

清瀬 なに？

山田 俺さ、

清瀬 なんだよ、

山田 来年から、社長だつてさ。親父が引退したら。

清瀬 へえー…よかつたじゃん。

山田 そうかあー。

清瀬 ……

山田 ……神崎さん、

清瀬 神崎部長？あ、

山田 子供のころからさ、厳しくてさ、

清瀬 ああ…

山田 くそじじいって思ってたら…ほんとにくそじじいだった

な。

清瀬 ……だな。

二人笑う。

少し間

山田 なあ、

清瀬 んー？

山田 りっちゃん…

清瀬 ……おう。

山田 何してんだろうな。

清瀬 さあ、

山田 ……

清瀬 ……子供の頃からずっとさ、いつも後ろからついて来た

よな…この辺から、よく見たんだ。遠花火って言うんだって。

東京に行くときも、

山田 俺、もう帰るよ。

清瀬 そうか、

山田 嫁も待ってるし。

清瀬 おう。

山田、軽くシャドーピッチング。清瀬、受ける。

清瀬 ……なあ、

投げ返す。

清瀬 何してんだろいな。

山田、シャドーピッチング。清瀬、受ける。

清瀬 おれの取りえなんてさ、鈍いものとしつこいのくらいだからさ、

山田 ……(じゃ、またな。)

清瀬 おう。

山田、退場。清瀬、手の中のボールを放る。

花火の音。

思い出は、見ることは出来ても触れることは出来ない。

(清瀬の後ろ或いは前に) 若いころの清瀬とりつ子 (渡部と里崎)。

清瀬 誰？りつちゃん？

りつ子 うん。

清瀬 どうしたの？明日から東京行くんだよね？

りつ子 うん。

清瀬 凄いなーお前。昔から頭いいとは思ってたけど、ええと、あれ？住むとことか決めた？

りつ子 ……うん、お母さんが来てくれて。

清瀬 そっか…東京かあ…

りつ子 ……

清瀬 あ、市営プールの小さい方、今年で廃止だって。お前、小3の時溺れかけたよな、覚えてる？

りつ子 ここ、嫌いだった。なにもかも一緒に、みられてて、中庸で、悪気のない悪意ばかりで。

清瀬 ……なにもかも一緒に、みられてて、中庸で、悪気のない悪意ばかりかあ…そうだな、俺も、苦手だよ、そういうところ。

りつ子 うん。

清瀬 よかったじゃん。

りつ子 やっと、出ていける。そう思ったの。

清瀬 「やっと、出ていける」

りつ子 でもね、でも、嬉しいけど、ひどくさみしい気もするの

清瀬 「嬉しいけど、ひどくさみしい気もするの」

りつ子 帰るとき、手紙を書くわ。

清瀬 「帰るとき、手紙を書くわ」

(若いころの) 清瀬、りつ子、上下に別れて退場。

清瀬、花火の音を聞いている。

しばらくして、懐から手紙を出す。広げる。読む。

ドアに気配を感じて

清瀬　りつ子、

風の音である。清瀬、少し笑う。手紙を仕舞う。

今度はドアを叩く音。外に渡部が来ている。

清瀬　はい、

渡部　あー、居た、清瀬さん、

清瀬、ドアをあける。

清瀬　健斗？どうした・・・

渡部　ちよ、聞いてくださいよ、また春風さんが野球部のことでど

ーのこーの。

清瀬　あーもう、なんでお前らそんなに仲悪いんだよ、

渡部　知りませんよ、そんなの、だいたい、

喋りながら中へ。

溶暗。

おしまい